



日本で大きな反響のあったワクチン債

予防接種のための国際金融ファシリテイ (IFFIm) は、日本の個人投資家向けの債券を発行し、2億2280万米ドル(17億ランド)の借入をおこない、2008年初頭に良いスタートをきりました。

IFFImの「ワクチン債」は、日本で大きな関心を集めました。売債(日本の個人投資家向けに販売される外国債)を購入したのは、主に50歳以上の投資家でした。

購入者の男女比はほぼ同じで、債券の40%が関東地方 - 首都圏に住む人々によって購入されました。

大和証券グループの大和証券SMBC株式会社が2年債を引き受け、大和証券株式会社が日本の投資家に販売しました。

「ワクチン債」は南アフリカランド建てで、個人向けの南アフリカランド建て債券としては、日本の個人市場では過去最大規模となりました。

大和証券は、10,000件以上の注文を受け、6日間の予約申込み期間に完売し、数ある売出取引の中でも、大きな成功を収めた案件となりました。

予防接種のための国際金融ファシリテイ (IFFIm) は、保健と予防接種に関するプログラムに対して予測可能かつ長期的な資金調達を促進する開発金融手段として2006年に設立されました。

IFFImの財務基盤はスポンサー国政府と結んだ法的拘束力のある拠出金誓約により構成され、これに基づきIFFImは国際金融市場においてAAA/Aaa/AAAの格付け債券を発行します。世界銀行はIFFImの財務マネージャーとしての役割を担います。

IFFImが調達した資金は貸付金としてではなく、助成金としてGAVIアライアンス(旧名:ワクチン予防接種世界同盟)を通じ、世界70カ国以上の最貧国へ拠出されます。

投資家一人あたりの平均購入額は20,000米ドル前後となりましたが、注文の45%以上は12,000米ドル未満でした。

「日本はスポンサー国にとって大きな借入市場であり、この取引により、IFFImは本邦資本市場においてその地位を確立することができました。今回の成功は、大和証券、世界銀行および関係機関の努力なくしては成しえなかったことであり、途上国における予防接種支援への投資に賛同していただいた日本国民と投資家のみなさまに深く感謝しています」とIFFIm代表アラン・ギレスピー氏は述べました。

「IFFImの日本市場参入は、記念すべきものとなりました。長年、世銀債をサポートしてきた大和証券とその顧客が、このIFFIm債を熱心に支援してくれたことに感謝します。IFFImは、国家政府資金、世界銀行の専門知識、GAVIの予防接種プログラムを結集することで、数百万人の命を救います。」と世界銀行のドリス・ヘラポル財務統括責任者は述べました。



2007年11月27日に南アフリカのケープタウンで行われたIFFIm理事会に集ったIFFImの支援国代表者、理事会メンバーおよびGAVIのスタッフ。

ドナー国に関する最新情報

IFFImドナー国のこれまでの誓約金額

英国
20年で 1,380,000,000 ポンド
フランス
20年で 1,239,960,000 ユーロ
イタリア
20年で 473,450,000 ユーロ
スペイン
20年で 189,500,000 ユーロ
スウェーデン
15年で 276,150,000 スウェーデンクローネ
ノルウェー
5年で 27,000,000 米ドル
南アフリカ
20年で 20,000,000 米ドル

他のドナー国が同調することが期待されている。例えばブラジルは20年で総計2,000万ドルの誓約を行うと声明しました。

IFFImは2006年に6つの資金拠出誓約国：フランス、イタリア、ノルウェー、スペイン、スウェーデンおよび英国により設立されました。2007年3月に南アフリカが加わりました。ドナー国を増やすために、IFFImとGAVIアライアンスの事務局が努力を続けています。

例えば、ブラジルからの2,000万米ドルのIFFImへの拠出金誓約とUNITAIDに対する航空連帯税の導入に関して、議会で同じ草案が作成されることから、GAVIはUNITAIDと協力し議会で承認される努力をしています。4月には、UNITAIDとGAVIの合同代表団がブラジル国外務省の協力を得て、議員への説明を行いました。

IFFImの設立以降、IFFIm代表アラン・ギレスピー氏はGAVI事務局スタッフと共に、IFFImへの参加貢献に関心のある国々へ積極的に接触しています。現在、ロシア、デンマーク、フィンランド、アイルランドおよびオランダの政府高官への説明が行われています。既にIFFImドナー国になっている国々からも、こうしたIFFImとGAVIの説明努力に協力いただいております。

Jiji Press > Nikkei > Fuji Sankei Business Eye > TV report NHK > TV Asahi's > Financial Times > Reuters > Agence France Presse > Bloomberg > Time Asia > Forbes magazine > the American Chamber of Commerce Journal > FinancialWeek > Forbes.com > San Diego's Union Tribune > Nature Medecine

IFFImに関するニュース報道

IFFImが3月に2回目の債券を発行したことから、主に2008年第1四半期においてIFFImに対するメディアの関心が高くなりました。

東京で行なわれた大和証券の説明会には、日本の金融ジャーナリストが多数出席し、時事プレス、日経、フジサンケイビジネスアイ、NHKのTVレポート、テレビ朝日のウェブサイトのマルチメディアレポートなどで、売出「ワクチン債」に関するさまざまな報道が行なわれました。

海外報道機関からは、フィナンシャルタイムズ、ロイター、フランス通信社、ブルームバーグ、タイム・アジア版、フォーブス誌、全米商工会議所ジャーナルなどが、このイベントを報道したことから、非常に効果的なメディア報道となりました。売出債券の通貨単位 - 南

アフリカランド - も、南アフリカの金融メディアから注目される理由となりました。

IFFIm理事であるアルンマ・オテ氏と世界銀行のジョイ・フマフィ氏によるIFFImの成功に関する論評記事が、4つの新聞に掲載されました。

3月以降、IFFIm代表アラン・ギレスピーが、ロイターの特別インタビューに登場し、フィナンシャルウイーク、フォーブスドットコム、サンディエゴのユニオントリビューンに取り上げられた他、米国を中心に販売されている科学誌、ネイチャー・メディスンによるインタビューも行なわれました。

IFFImは、第1四半期だけで、合計40以上の著名なメディアに登場したことになります。

子供に予防接種を受けさせたい理由



UNICEF ETHIOPIA / INDIRIAS GETACHEW



GAVI/2007/EDY PURNOMO



GAVI/2007/MITHRA WIERAKONE



GAVI/2007/KATHERINE BRISEBOIS

「ブラックタイエットは、私の5番目の子どもで、生後5ヶ月になります」と、エチオピアのメセルト・テジョメは言います。「彼女が健康に育ってくれるように、必ずワクチン接種を行っています。私たちにはあまりお金がなく、子ども達が健康であれば、少ないお金を医療費や薬代ではなく、衣服や教材購入に使うことができます。」

「ナイラ・ヌア・ファティマは生後10ヶ月で私の3番目の子どもです」と、インドネシアのヌア・イズナイニさんは言います。「予防接種によって免疫が強くなり、健康の維持に役立つことは知っているのですが、子ども達には全員予防接種を受けさせています。健康は子ども達にとっての大事な資産です。健康であれば、彼らは生きていけるだけでなく、学校で良い成績を収めたり、自分たちの志を達成することができます。」

「タリニ・アナパジャは私たちの最初の子どもで、生後2ヶ月になります」と、スリランカのナリニ・ギシカさんは言います。「予防接種は病気を防ぐので、すべてのワクチンを接種し、健康で長生きしてもらいたいと思っています。親なら誰でもそう思うでしょう？予防接種は、彼が幸せな生活を送り、目標を達成する手助けになります。」

「息子のデニス是我的4番目の子どもですが、3人だけ残っているのです。」と、ガーナのハリエット・バモーさんは言います。「子ども達にはできるだけ健康でいてもらいたいですし、予防接種がそれに役立つことは知っています。デニスが成長したら、立派な人になってもらいたいです！もしかしたらパイロットか医師かしら。とにかく、素晴らしい人物に！」

1回のワクチンが5つの致命的疾患から子供を守ります

GAVIの予測によると、2008年末までに、新型五価ワクチン（1回分の注射剤に5種類の抗原）が、5000万人以上の子ども達に接種されることとなります。このワクチンは、ジフテリア、破傷風、百日咳、B型肝炎、インフルエンザ菌b型（Hibとも呼ばれる）に対する抵抗力を高めます。

GAVI支援対象国のうち合計49の国において、命を救うこのワクチンの導入が承認されて

おり、その費用の大半は、IFFImにより集められた資金によって支払われます。

五価ワクチンに対する需要の増加要因として、強力なコミュニケーションや支援活動、IFFImで調達されるような長期的で予測可能な資金の確保、ならびに新型で利便性の高い液体混合ワクチンであることが大きく影響しています。

成功に基づいた基盤の確保

IFFImの目標は、2006年から2015年にかけて、予防接種に40億米ドルを提供することです。毎年、約2700万人の乳幼児が、一般的な小児疾患に対して予防接種を受けられず、容易に予防できる疾患で死亡する子供の数は、年間200万から300万人に達しています。

設立から1年が経ち、予防接種のための国際金融ファシリティは明白な功績を残していません。特定の開発支援のために国際債券を発行するという初めての試みは、保健に対する具体的な成果の成功を証明しました。

2007年末までに、1回目の債券発行による収益全体の約90%に相当する8億6200万米ドルの支払いが行われました。この資金調達により、予防接種と保健開発支援を支える「主要な」GAVIプログラムに加え、GAVIパートナー機関が実施している様々な疾患撲滅対策事業を一時的なものとして特別に支援を行いました。

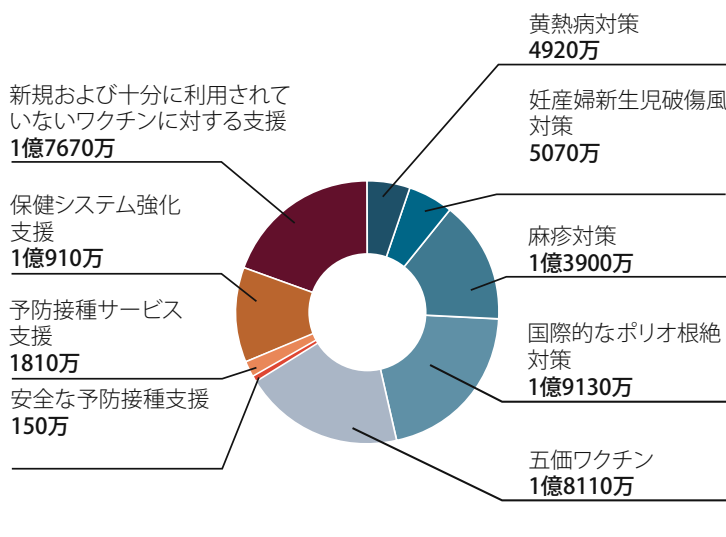
2年目も、IFFImは、安定した財務基盤を維持しました。2006年に初回債券が10億米ドル相当分発行された後、2回目の債券が日本で発行され、さらに2億2280万米ドルもの資金が調達されました。

2008年3月31日の時点で、IFFImは、13億2000万米ドルの資金拠出を承認し、9億1700万ドルがすでに支払われています。2008年の第1四半期だけでも、IFFImの資金のうち5300万米ドルが支払われています。その大半は、保健システムの強化、ならびに新規および十分に利用されていないワクチン支援のために使用されています。

IFFImの支出見通しは、現在も堅調です。2008年6月の時点で、承認されたプログラムに対する資金の累積は14億9100万ドルに達すると予想され、その3分の2はすでに支払われており、残りも今後18ヶ月ですべて支払いを終了する予定です。

多くの国が長期的な誓約を結び、IFFImの継続的な債券発行により、開発途上国へのGAVIプログラム支援を倍増することが可能となりました。

2006年から2008年3月までのIFFImの支出(米ドル)



GAVIアライアンスは保健サービスの向上と予防接種の範囲と質を高めることで、世界の最貧国における子どもの健康増進を焦点とする官民セクターを含む独自のパートナーシップ機関です。

GAVIアライアンスには、ユニセフ、世界保健機関、世界銀行、市民社会組織、公衆衛生機関、ドナー国と開発途上国政府、ビル&メリンダ・ゲイツ財団、その他慈善事業家、ワクチン産業界、IFFIm、財界など、専門性を持つ広範な開発パートナーの包括的努力により、この分野でかつてない進歩に貢献しています。

世界銀行はIFFImの財務を担当しています。その立場上、世界銀行はIFFImの財務を厳密な政策と基準に従って管理しています。これにはIFFImの資金調達戦略作成と資本市場における債券発行の実施、格付け機関や機関投資家への対応、ヘッジ取引、投資管理などが含まれています。また世界銀行は、IFFImのドナー国と調整を行い、その資金誓約と支払いを管理し、GAVIを通じた予防接種と保健プログラムのための拠出を管理しています。

最新の情報はwww.Iff-immunisation.org 詳細に関するご連絡先: を参照してください。

Carol Piot
cpiot@gavialliance.org
+1 202 478 7736

Rachel Winter-Jones
rjones1@worldbank.org
+33 1 4069 3052